

ICT関連用語メモ

視線入力支援装置	専用の機器を使い、画面を注視(見つめること)で画面を操作することができる装置
音声入力ソフト	マイクに向かって話した音声を認識し、文字データとして入力するソフト
画面共有	パソコンやタブレット等に表示されている画面やデータを相手の画面に表示させる機能
フィッティング	適合を指し、一人一人異なる身体状態に合わせて二次障害を抑制しつつ、能動的に操作できるよう機器を設置し、環境調整を行うこと
AAC	補助代替コミュニケーション 例:カード、文字盤、スイッチ、タブレット等

■「教育の情報化に関する手引」について

文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html



■支援教材ポータル

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
<http://kyozai.nise.go.jp/>



■発達障害のある子どもたちのためのICT活用ハンドブック

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
①特別支援学級編 兵庫教育大学編 ②通級指導教室編 宮城大学編 ③通常の学級編 筑波大学編



■ICT夢コンテスト

日本教育情報化振興会
<https://www.japet.or.jp/activities/promotion-of-ict-utilization/ict-dream-contest/>



お問い合わせ

兵庫県教育委員会事務局 特別支援教育課
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1
TEL:078-362-3774



自立活動に
ICTって
ハードル高そう。。。

ICTだから
簡単にできる
授業の工夫って？

令和3年度 文部科学省委託
「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業」

自立活動 × ICT

対面の方がいいのでは？
オンラインより

子どもの実態に応じた
ICTの活用方法は？

ICTのどんな機能を使えばよいのかな？

ICTを活用した自立活動の効果的な指導について

— 子ども一人一人の願いを叶えるために —

記載されている事例の
これまでのプロセスは
QRコードからご覧いただけます。



CASE 01 | 特別支援学級での事例



【人間関係の形成×タブレット】 「交流学級に行きたい」

- (1) 子どもの実態
 - ・集団からの視線に恐怖や恥ずかしさを強く感じ、交流学級に行くことが苦手。
- (2) 取組内容
 - ・交流学級の授業や活動をリモートで視聴する
 - ・視聴しながら、ノートやワークシートを記入する。
- (3) 使用 ICT 機器
 - タブレット型パソコン（撮影用1台、受信用1台）マイクスタンド
タブレット スタンド
- (4) 【成果】 子ども・教員等の変化
 - ▶子ども：交流学級で一日、過ごせるようになった。
 - ▶教員：映像の視聴であっても学習意欲の向上や友達とのふれ合うきっかけにつながるようになった。



CASE 02 | 特別支援学級での事例



【身体の動き×視線入力支援装置】 「友達とクイズで一緒に盛り上げたい」

- (1) 対象子どもの実態
 - ・副腎白質ジストロフィーによる筋緊張から身体をスムーズに動かすことが難しい。
 - ・言語の表出は難しいが、新しいことへの挑戦意欲が高い。
- (2) 取組内容
 - ・身体力を抜き、視線が安定する姿勢についてマットやタブレットの向きなどを組み合わせ試す。
 - ・視線によりカーソルを動かして画面の色を消し消したところから見え隠れする画像を当てるクイズを友達に出題する。
- (3) 使用 ICT 機器
 - タブレット 視線入力装置
- (4) 【成果】 子ども・教員等の変化
 - ▶子ども：①力を抜くことができる姿勢がわかり、座位よりも長い時間、画面を注視することができた。
 - ②視線入力を使うことで、自分の考えやタイミングでクイズを作ることができた。
 - ▶教員：①画面を注視しやすい姿勢や注視の仕方がわかり、より伝わりやすい教材の提示を考えることができた。



CASE 03 | 高校通級による指導での事例



【コミュニケーション×タブレット】 「自分に合うアプリを見つけたい」

- (1) 子どもの実態
 - ・言葉で説明することが苦手。
 - ・会話が一方的でその場の雰囲気を理解しにくい。
 - ・周りに嫌われているのではと気になる。
 - ・スマホなどでアプリを使用している生徒が多い。
- (2) 取組内容
 - ・自分の生活を豊かにするアプリをタブレットで調べる。
 - ・調べたことを友達と情報交換しながら紙に書き出す。
 - ・書き出したものを写真に撮り、スクリーンに提示し、発表する。
- (3) 使用 ICT 機器
 - タブレット
- (4) 【成果】 子ども・教員等の変化
 - ▶子ども：友達がどんな場面でそのアプリを使っているかを知ることができた。
 - ▶教員：①教員が想像していたより、生徒達は色々なアプリを知ることがわかった。
 - ②生徒が自分に必要なアプリを考えることで自己理解や障害について考える機会になった。



CASE 04 | 難聴の通級による指導での事例

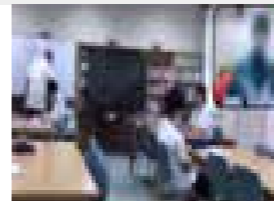


【環境の把握×遠隔システム】 「他校の同じ障害のある人と友達になりたい」

- (1) 対象子どもの実態
 - ・口話での会話が可能
 - ・聞き取れない不安が強い
 - ・聞き誤りがみられる
- (2) 取組内容
 - ・事前事後にオンラインでの授業に参加する上で必要な支援を考慮する機会を設けた。
 - ・自己紹介スライドを作成し、画面共有を行った。
 - ・マイクでの音声を字幕で変換して画面に表示した。
- (3) 使用 ICT 機器
 - パソコン タブレット
- (4) 【成果】 子ども・教員等の変化
 - ▶子ども：字幕やロジャー補聴器の使用により、オンラインでも内容が理解できることがわかり、安心して他校の通級生と交流することができた。
 - ▶教員：装着する補聴器や子どもの性格等によってオンラインでの聞き取りの違いを把握することができた。



CASE 05 | 特別支援学校での事例



【コミュニケーション×遠隔システム】 「安心して授業を受けたい」

- (1) 対象子どもの実態
 - ・不登校傾向が強く、集団参加が難しい。
 - ・自己理解や他者理解、進路に関する学習に抵抗がある。
 - ・特定の教師とはコミュニケーションがとれる
- (2) 取組内容
 - ・本人が気に入っている動画を教材に選び、リモートでの授業に慣れる。
 - ・職業や実習に関する授業をリモートで受けながら側にいる教師が本人に応じた問いかけやプリント学習を行う。
- (3) 使用 ICT 機器
 - タブレット
- (4) 【成果】 子ども・教員等の変化
 - ▶子ども：リモートという安心できる環境において、卒業後の進路や自分の適性について考えられるようになった。
 - ▶教員：生徒の実態に応じた学習方法の選択肢が広がった。



自立活動×ICTを 効果的に指導するには 事前の把握が重要!!

- 子ども・保護者の願いはどんなことですか？
- 子どもの得意なこと、苦手なことはなんですか？
- 使いたい ICT 機器はどんなことができますか？
- ICT 機器を実際に試してみましたか？
- 自立活動や ICT について相談できる人は？